

論文 article

行田市中心市街地の活性化施策が 住民のまちづくり意識に及ぼす影響に関する基礎的研究

原稿受付 2020 年 8 月 3 日

ものづくり大学紀要 第 号 (2010) 43 ~ 48

菰塚玲奈^{*1}, 田尻要^{*2}, 守家志^{*3}, 木村奏太^{*4}

^{*1} ものづくり大学大学院 ものづくり学研究科 ものづくり学専攻

^{*2} ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科

^{*3} ものづくり大学 非常勤講師

^{*4} 埼玉県立いずみ高等学校 環境建設科 技術教員
(ものづくり大学大学院 ものづくり学研究科 ものづくり学専攻 修了)

Basic research of affects for residents' awareness of city planning by activation measure in central area of Gyoda city

Reina NIRAZUKA ^{*1}, Kaname TAJIRI ^{*2}, Kazushi MORIYA ^{*3}, Souta KIMURA ^{*4}

^{*1} Graduate student, Graduate School of Technologists, Institute of Technologists

^{*2} Professor, Dept. of Building Technologists, Institute of Technologists, Dr. Eng

^{*3} Part-time Lecturer, Dept. of Building Technologists, Institute of Technologists

^{*4} Technical Teacher, Dept. of Environment and Construction, Saitama Prefectural IZUMI High school
(Graduate, Graduate School of Technologists, Institute of Technologists)

Abstract

By the Urban Planning Law of 1992, it has become the duty to reflect the opinions of citizens in town planning. Workshop Nationally general that citizens participate. Also, in the continuously vibrant municipality, a citizen often works on community building in independent way personally. But, there are not study examples that evaluated the influence that independence gives to a workshop quantitatively. In this research, I am Focusing on each utterance contents and independence at the held workshop in Saitama prefecture Gyoda city, the study of effective workshops. Divided independence into six factors were quantitatively evaluated. utterance content was evaluated by classifying the quantity and quality of utterance. In the relationship between the distance and independence from the theme, it was found that spontaneity and self-assertion is high. People who have this independence is considered to be an ideal person to workshop. By this person to participate in the workshop, it can be carried out effective workshops.

Key Words : Planning city, Citizen participation ,Independence, Meaningful workshop, Consensus building,

1. はじめに

1992 年の都市計画法の改正では、まちづくりに関する施策の立案や実施効果について、住民の意見や評価を反映させることが義務化¹⁾されており、主に住民意識を指標とした検証が不可欠となって

いる²⁾。

行田市では、2013 年度に策定された「都市計画マスタープラン」³⁾の一環として、2015 年度より 5 カ年計画で中心市街地活性化を目指したハード面の整備に関する「秩父鉄道行田市駅周辺地区都

市再生整備計画」⁴⁾が進められている。

事業最終年度にあたる本研究では事業効果の検証が必要であることから、住民意識の変化を指標として、当該事業効果と住民のまちづくり意識に及ぼす影響について調査を実施した。

2. 調査の概要

2.1 住民意識調査の概要

調査の概要を Table1 に示す。本調査は整備事業開始年、整備事業実施年、整備事業終了年にあたる 2015 年度・2017 年度・2019 年度の隔年で調査を実施し、整備事業の評価および住民のまちづくり意識への影響把握を行った。当該事業は行田市の中心市街地が事業対象地区であるが、波及効果も把握するために事業対象地区外も調査の範囲とした。また、事業効果の指標として Table2 に示すように住民のまちづくりに関する満足度について 6 カテゴリー 31 項目を設定した。

Table1 Survey outline

No.	カテゴリ	実施内容
1	調査手法	個人を記名式によるアンケート調査 各家庭2部配布(回収部数は個人の任意)
2	調査対象	事業対象地区 行田市駅周辺地区を中心市街地とし、 1100世帯(1年目)・600世帯(3年目)・1100世帯(5年目) 事業対象地区外 中心市街地外を中央、西側、南東部に分類 該当地区に居住している住民から 年代別で無差別抽出した各510世帯
3	調査期間	1年目 2015年11月30日(月) 3年目 2017年10月18日(水) 5年目 2019年10月1日(水)
4	配布方法	ポスティング形式 郵送配布形式
5	回収方法	料金受け取り人払い
6	回収/配布(部) (世帯数ベース)	1年目 286/1100 356/1530 3年目 93/600 248/1530 5年目 112/1100 242/1530
7	回収率(%)	1年目 26.0 23.3 3年目 15.5 16.2 5年目 10.2 15.8

Table2 Classification table applied to town development satisfaction

No.	カテゴリ	まちづくり満足度の31項目	No.	カテゴリ	まちづくり満足度の31項目
1	医療福祉	健康づくり・保健サービス	17	防災防犯	暴力や犯罪がすくないこと
2		医療機関やその体制	18		夜間の生活道の明るさや歩道の安全性
3		高齢者・障害者の福祉サービス	19		災害時の避難路及び避難場所の整備
4		基地の整備	20		災害の発生時の対応や防災対策
5		公共施設等のバリアフリー化	21		交通安全や防犯などのまちの安全性
6	社会資本	雇用の場、就労対策	22	教育文化	消費者保護のための相談体制と情報提供
7		公共下水道や農業集落排水施設の整備	23		子育て支援サービス
8		上水道の整備	24		児童・生徒の教育
9		情報基盤の整備や地域情報化への取組み	25		生涯学習などの学びの施設や機会
10		公害対策やごみの減量化への取組み	26		スポーツ・レクリエーションの施設や機会
11	暮らしの快適性	ごみの収集・処理サービス	27	交通インフラ	伝統的な文化・芸能の保全や活用
12		身近なコミュニティの場、雰囲気	28		広域的な幹線道路の利便性
13		公園や緑地の整備や確保	29		身近な生活道路の安全性や快適性
14		行田市の自然環境	30		秩父鉄道行田市駅の利便性
15		買い物の利便性	31		バス交通の利便性
16		市街地の美しさや快適性			

3. 分析の概要

本調査の対象地域を Fig.1 に示す。整備事業は行田市中心市街地が事業対象地区(以降対象地区と略)であるが、整備事業の波及効果も把握し面的に整備事業効果を評価することを目的とするために、事業対象地区外(以降対象地区外と略)も調査の範囲とした。



Fig.1 Map around the project area

4. 調査の結果・分析

4.1 整備事業の認知度

整備事業の認知度を Fig.2 に示す。整備事業の認知度について 2017 年度以降は整備事業の内容を“知っている”回答者が増加傾向にある。整備事業が終了した 2019 年度においての認知度は約 5 割を占めていることから、整備事業の完了に伴い整備事業の認知度向上に繋がったと考えられる。

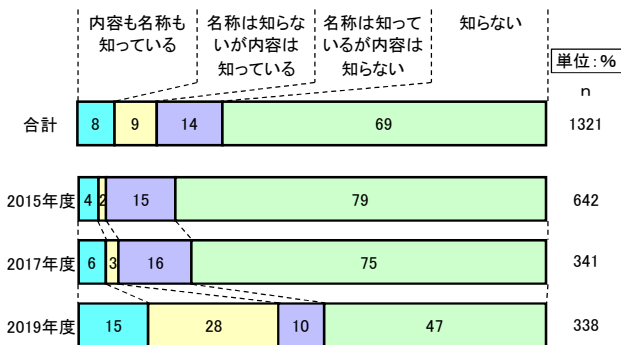


Fig.2 Awareness of a maintenance project

4.2 整備事業の効果

対象地区別のまちづくり項目に着目した整備事業効果を Fig.3 に示す。満足度の算出法は各まちづくり満足度の最も評価の高い“満足”を 100 点、最も評価の低い“不満”を 0 点、中間評価は等間隔にて点数を算出し平均化した。各地区の経年に着目すると対象地区では“交通インフラ”と“暮らしの快適性”に改善がみられた。いっぽうで“社会資本”“防災防犯”に対しては改善を要望していることがわかった。対象地区外ではいずれの項目においても改善を要望しており、特に“暮

らしの快適性”に対して改善要望が高いことがわかった。また、最低評価項目は“市街地の美しさや快適性”であった。対象地区での整備事業の進行により、対象地区外においても同様の整備事業を求めていることから、結果として“暮らしの快適性”の評価の低下に繋がったと考えられる。

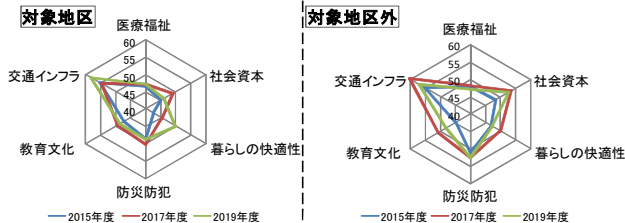


Fig.3 Maintenance project effect focusing on town development items by target area

また、整備事業対象地区において改善がみられた「交通インフラ」「暮らしの快適性」における評価項目の詳細を Fig.4 に示す。整備事業の進行により改善がみられた項目は、“市街地の美しさや快適性”であることがわかる。整備事業の進行に伴い、住民の住環境の改善に結びつき評価の向上に繋がったと考えられる。また、“公園や緑地の整備や確保”において上昇したことがわかる。これは、整備事業の一環として行われたバスターミナル内の緑化活動が一定の評価を得たことが要因と考えられる。

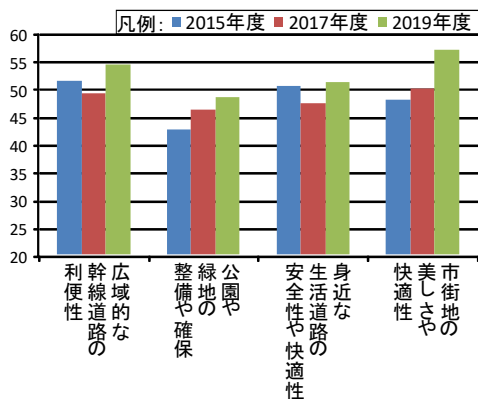


Fig.4 Details of town development evaluation items that showed improvement

4.3 まちなみ満足度と整備項目の関係

まちなみ満足度の評価別にみたまちづくり評価項目の関連性を CS 分析を用いて Fig.5 に示す。項目は前述で述べた「交通インフラ」「暮らしの快適性」を選別している。縦軸はまちなみ満足度、横軸はまちづくり評価項目の重要度を示す。右上

の項目が、まちなみに満足している回答者が重要視している項目である。分析より、まちなみ満足度の高い回答者が評価している項目としては、

“行田市の自然環境”が挙げられている。いっぽう、まちなみ満足度は低い重要改善項目として、“市街地の美しさや快適性”“公園や緑地の整備や確保”“身近な生活道路の安全性や快適性”が挙げられていることがわかった。中心市街地のみ行われた整備事業であったため、行田市のまちづくり評価は一定数あるものの、まちなみとして評価した場合、行田らしさに不満を抱える住民がいるものと考えられる。

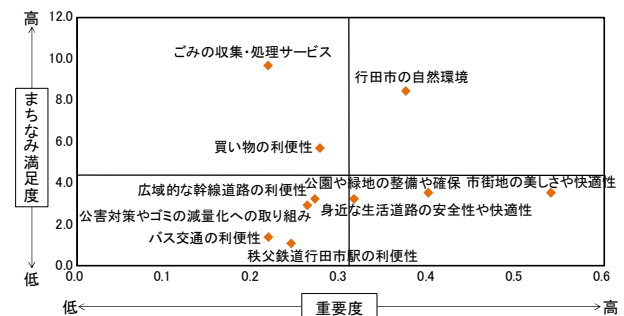


Fig.5 Relevance between townscape and satisfaction and maintenance item

4.4 整備事業の振り返り

まちづくり満足度に着目した整備事業の評価を Fig.6 に示す。普段からまちづくり意識が高い住民の約 2 割は整備事業について“とても満足している”“まあまあ満足している”と回答していることがわかる。行田市としてのまちづくりの方向性を十分に理解していることによって、整備事業が行田市において効果的な取り組みと判断していると考えられる。いっぽう、意識の低い住民の約 4 割の回答者が“あまり満足していない”“満足していない”と回答している。以上より、まちづくりへの関心の有無によって、整備事業に対する評価が二分されていると考えられる。

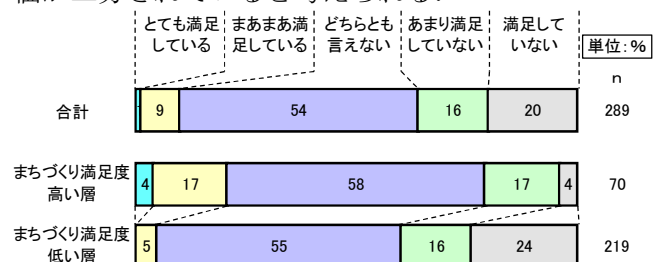


Fig.6 Swing return marks of the maintenance business

5. 事業効果とまちづくり意識の関係性

以降ではまちづくり意識に着目し、整備事業が住民のまちづくり意識に及ぼす影響について分析を行う。なお本項では、まちづくり意識の高い層に着目して分析を行う。

5.1 経年変化に着目した地域活動意向

経年変化に着目した地域活動の意向の変化を Fig.7 に示す。まちづくり意識の高い住民は、整備事業の進行に伴い地域活動への参加意向が上昇し、2019年度では“参加したい”回答者が約6割を占めている。八幡通りにおける歴史的街路整備等が目に見えて進行することによって、行政施策への関心やそれに類する住民活動への興味が醸成されたと考えられる。

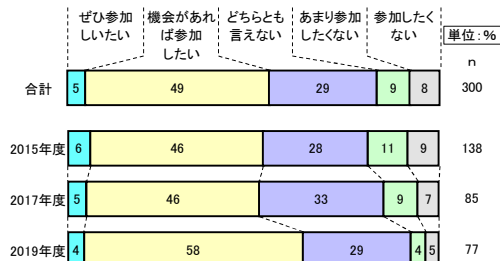


Fig.7 Intention of local activities focusing on secular change

5.2 まちづくり意識と地域活動の頻度

まちづくり意識に着目した地域活動の頻度を Fig.8 に示す。活動の頻度を経年で分析すると、地域活動に“よく参加している”回答者が上昇傾向にある。また、2017年度に比べ2019年度では地域活動に“たまに参加している”回答者が増加していることがわかる。これは、歴史的街路整備等といった各道路整備に関するまちづくりが2019年度を持って完了し、ハード面の変化から住民の地域活動の意欲が向上したことで活動頻度の向上に繋がったと考えられる。

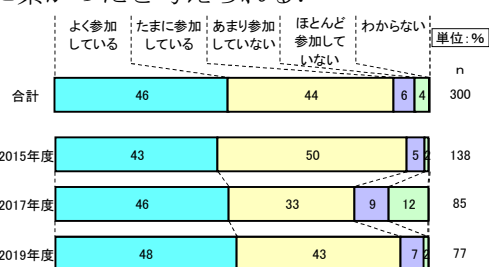


Fig.8 Town planning satisfaction and frequency of the local action

5.3 事業評価とまちづくり意識の関連性

整備事業評価とまちづくり意識の関連性を数量化II類分析を用いて表した図を Fig.9 に示す。整備事業を評価している回答者は、地域活動に“ぜひ参加したい”との割合が高く、まちづくりに対する満足度も高い傾向にあることがわかる。いっぽう、地域活動の意向が低く、まちづくりへの評価が低い回答者は整備事業への評価も低い傾向にあることから、整備事業の評価とまちづくりへの意識に一定の相関性があることがわかる。

整備事業のようなハード面を主とした施策は、ソフト施策とは異なり目に見えて変化を認識できることから、まちづくりに関心を持つきっかけとして機能していると考えられる。

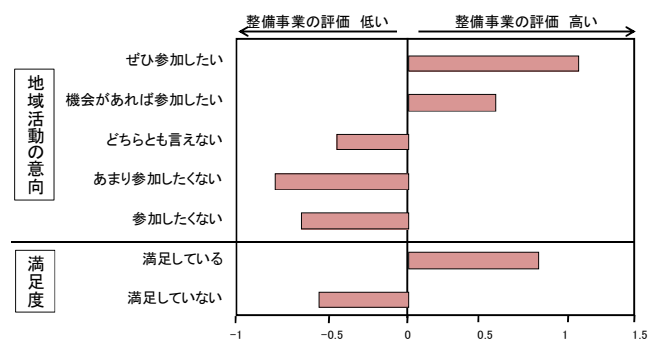


Fig.9 Relevance between of a maintenance business evaluation and town planning consciousness

5.4 整備事業とまちづくり意識の関係

本研究より整備事業の実施によってまちづくり意識の異なる層それぞれに意識変化を及ぼしたことがわかった。整備事業が住民のまちづくり意識に及ぼす影響を Fig.10 に示す。まちづくり意識が高い層に着目すると、整備事業が住民活動の活性化に貢献したことがわかった。いっぽう、活動の規模拡大や活動内容の充実等においては効果がみられないことから、整備事業とは別の施策展開が必要と考えられる。また、意識が低い層においては、整備事業の認知度の向上には影響を及ぼしたものの、まちづくりへの興味の醸成において十分な効果が得られなかったことがわかる。したがって、意識が高い層とは異なり住民活動や行政施策への興味が醸成するような取り組みが必要と考えられる。

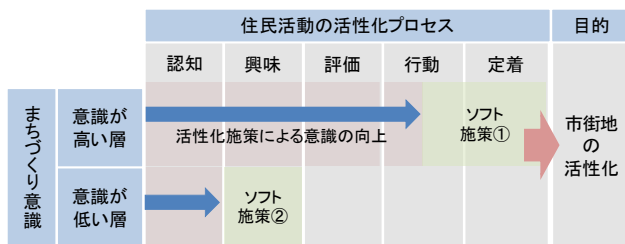


Fig.10 Effect of maintenance projects on residents' awareness of town planning

5.5 地域活動意向とまちづくり要件

地域活動の意向について、まちづくりに必要な取り組みとの距離によって相対的な影響度を示すコレスポネンズ分析を Fig.11 に示す。地域活動意向の高い住民は“市民人材の発掘・活用の仕組みづくり”“まちづくりや地域活動リーダー育成”を必要とする傾向にある。したがって、行田市において住民活動を定着させるためには、リーダーの育成や活動をサポートする仕組みの醸成といったソフト面のサポートが必要と考えられる。

また、活動意向が中度の住民は“活動参加の機会やきっかけ・場づくり”“多様なボランティアの育成”を必要としている傾向にあり、地域活動に興味を持っているものの、参加するきっかけや取り組み内容に不安を抱いていることがわかる。これらの層に対しては、地域活動参加へのハードルを下げる必要があると考えられる。

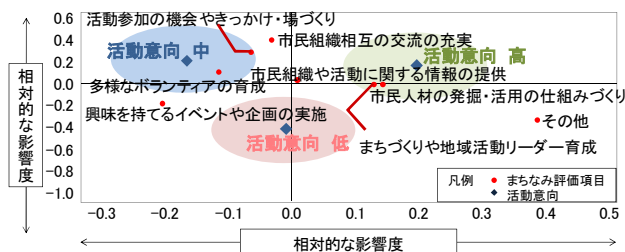


Fig.11 Approach necessary for town planning by local action intention

5.6 まちづくり意識の向上に関する項目

まちづくり意識の向上を目的に各まちづくり項目で取り組むべき事項を把握するため、まちづくり満足度を目的変数に設定し CS 分析を行った。分析結果を Table3 に示す。「交通インフラ」に着目すると、整備事業進行中である 2017 年度において最重要改善項目であった“身近な生活道路の安

全性や快適性”が整備完了時の 2019 年度では、“行田市駅の利便性”に変化している。整備事業による各道路整備が、一定の評価を得たことが影響していると考えられる。また、2019 年度の各項目に着目すると、「医療福祉」における“公共公益施設等のバリアフリー化”や「暮らしの快適性」における“市街地の美しさや快適性”といったハード面に関する改善項目が挙げられていることがわかる。今後これらの項目を考慮したハード面の整備を実施することにより、整備事業の評価向上に加え、地域住民のまちづくり意識の向上に寄与すると考えられる。

Table3 Items that affect the improvement of town planning awareness

項目 年度	医療福祉	社会資本	暮らしの 快適性	防災防犯	教育文化	交通インフラ
2015年度	公共公益施設等の バリアフリー化	雇用の場・ 就労対策	身近なコミュニティ の場・雰囲気	災害の発生時の 対応や防災 対策	生涯学習など 学びの施設や 機会	バス交通の 利便性
2017年度	基地の整備	情報基盤の整備や 地域情報化への 取り組み	身近なコミュニティ の場・雰囲気	消費者保護の ための相談体 制と情報提供	子育て支援 サービス	身近な生活道 路の安全性や 快適性
2019年度	公共公益施設等の バリアフリー化	情報基盤の整備や 地域情報化への 取り組み	市街地の美しさや 快適性	交通安全や 防犯など まちの安全性	スポーツ・ レクリエーショ ンの施設や 機会	秩父鉄道 行田市駅の 利便性

6. 本研究で得られた知見と展望

本研究で得られた知見と今後の展望を示す。

- ①対象地区の傾向からハード面の整備が進行するにつれ、“交通インフラ”“暮らしの快適性”のまちづくり評価が改善されていることがわかった。今後は他の評価項目を向上させるための施策を展開することで、行田市のまちづくり評価向上に繋がると考えられる。対象地区外においてもハード面の整備を推し進め住民のまちづくり評価の改善を行うことで、行田市全域における評価向上に繋がると考えられる。
- ②整備事業の実施によって、“市街地の美しさや快適性”“身近な生活道路の安全性や快適性”の評価が向上したことがわかった。また、行田市のまちなみ満足度の向上においては、上記の項目に加え“公園や緑地の整備や確保”の評価向上が最も効果的であることがわかった。今後はこれらの項目を重点においたハード面の整備を実施することにより、まちなみに対する住民の評価向上に寄与すると考えられる。
- ③整備事業評価とまちづくりに関する各意向の関連性の分析によって、整備事業の評価と住民

行田市中心市街地の活性化施策が
住民のまちづくり意識に及ぼす影響に関する基礎的研究

のまちづくり意識に一定の相関性があることがわかった。また、住民のまちづくりへの意識に着目すると、その差異によって地域活動意向への影響度に違いがみられることがわかった。今後はハード面の整備を軸として、それぞれの層に適した施策を行うことによって整備事業をより効果的に展開、住民活動の活性化に寄与しうると考えられる。

- ④地域活動意向に着目すると、まちづくり意識が高い住民は整備事業に伴い地域活動の頻度が向上している。これは目に見える整備事業の進行が行政施策への関心や活動のきっかけづくりに寄与したと考えられる。いっぽう、地域活動の更なる活性化においては影響がみられないことから、整備事業とは別に“まちづくりや地域活動リーダー育成”“市民人材の発掘・活用の仕組みづくり”等のソフト面でのサポートを実施し、地域活動の土台形成を行うことが必要と考えられる。
- ⑤まちづくり意識が低い住民では、ハード面の整備によって行政施策や住民活動の認知の向上をもたらしたが、それ以降の地域活動意向に影響を及ぼさないことがわかった。これらの層に対しては、「医療福祉」における“公共公益施設等のバリアフリー化”や「暮らしの快適性」における“市街地の美しさや快適性”に関するハード面の整備の実施によって、効果的にまちづくり意識を向上させることが重要であると考えられる。

謝 辞

本研究は国土交通省「社会資本総合整備計画」の助成により、行田市都市計画課と共同で 5 カ年計画の中で進行中（5 年目）の事業である。関係各機関に深謝申し上げます。

文 献

- 1) 行田市都市整備部都市計画課:行田市都市計画マスタープラン水と緑と歴史がおりなす笑顔あふれるまちぎょうだ,pp2-5,2012.
- 2) 行田市都市整備部都市計画課 他関連課:都市再生整備計画秩父鉄道行田市駅周辺地区,pp1-8,2015.
- 3) 行田市市民公益活動推進委員会 行田市:行田市市民公益活動推進基本計画～協働のまちづくりを目指して～,pp3-8,2015.
- 4) 塚田伸也ら:市街地の成立要件から捉えたまちづくりの住民満足度と課題について,都市計画論文集 40(0),128-128,2005.
- 5) 栗原真行ら:社会資本政策に対する住民の意識構造,都市計画論文集 36(0),907-912,2001.